

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記③

国立市立国立第七小学校

平成27年7月1日 NO.38 (238)



モンタ博士！  
ネコジャラシを  
見つけました！

1年生 「モンタ博士！こんな草を見つけました。」

モンタ博士「あ！1-1のSさんですね。どれどれ見せてごらん。うわあーすごいね。  
よく見つけたね。よく気がついたね。よしよし！いい子だね。」

1年生 「これはネコジャラシですね。」

モンタ博士「そのとおりだよ。よく知っているね。」

1年生 「だって、この草でネコをちょちょすとおもしろいんだもん。」

モンタ博士「そうだね。モンタ博士もネコにちょちょしたことがあるよ。正しい名前は、  
エノコログサというんだよ。」

1年生 「へえー。そうなんですか。でも、どうしてエノコログサというのですか。」

モンタ博士「そうだね。どうしてかと疑問に思ったり、不思議だと考えることが大切だね。」

エノコロというのは、犬<sup>いぬ</sup>のことで、イヌのしっぽ<sup>に</sup>に似ているからなんだ。」

1年生 「へえー。なるほど。そういうことですか。」

モンタ博士 「あのね、このネコジャラシ（エノコログサ）は、ネコをちょちょよするだけでなく、ほかの遊び<sup>あそび</sup>方<sup>かた</sup>もあるんだけど、知<sup>し</sup>っているかな。」

1年生 「知りませーん。」

1年生 「モンタ博士！教<sup>おし</sup>えてくださーい！」

モンタ博士 「まったくむずかしくはないよ。かんたんなんだ。」

1年生 「どうするのですか。」

モンタ博士 「まず、右の絵<sup>みづ</sup>のようにグー<sup>え</sup>を作<sup>つく</sup>って、そのまん中<sup>なか</sup>にエノコログサ<sup>い</sup>を入れるんだ。」

1年生 「中<sup>なか</sup>に入れてどうするのですか。」

モンタ博士 「あとはニギニギするだけさ。さあ！おどろきた。もこもこずんずんと上<sup>うへ</sup>に上が<sup>あ</sup>ってくるよ。エノコログサを反<sup>はんたい</sup>対<sup>たい</sup>にすると、今<sup>こんど</sup>度は、ぎゃくに、もこもこずんずんと下<sup>した</sup>に下<sup>さ</sup>がっていくよ。どうかな。わかったかな。わかったらや<sup>や</sup>ってごらん。」

1年生 「うわあー。もこもこずんずん上<sup>あ</sup>がるよ。」

1年生 「うわあー。もこもこずんずん下<sup>さ</sup>がるよ。」

1年生 「おもしろいね。たのしいね。」

モンタ博士 「あーよかった。よかった。これからもみんなが喜<sup>よろこ</sup>ぶよ<sup>よ</sup>うな『草花遊<sup>くさばなあそ</sup>び』をたくさんたくさん紹<sup>しょうかい</sup>介<sup>かい</sup>してあげようね。」

1年生 「わーい！わーい！うれしいな。」

モンタ博士 「でもね、遊<sup>あそ</sup>びに夢<sup>むちゆう</sup>中<sup>ちゆう</sup>になってもいいけど、車<sup>くるま</sup>には気<sup>き</sup>をつけてね。それから、あまり寄<sup>よ</sup>り道<sup>みち</sup>してはいけないよ。おうちの人<sup>ひと</sup>が心<sup>しんぱい</sup>配<sup>ぱい</sup>するからね。」

### 草花遊びの意味

道草という言葉がありますが、これは、子供達が学校の行き帰りに路傍の草花に目を留め、あれこれと遊んだことからできた言葉だと思います。昔は、今と違い遊び道具もなく、自然の様々な事物が遊びの対象になり、草花遊びなどもよく行っていたのでしょ。この草花遊びという行為は、花の香りや草のにおい、さらに土の感触などを、体全体で五感で感じ取ることができます。さらに、花には色や形などの違いがあることや、葉っぱでもつるつるした物やざらざらの物まであること。また、脈の走り方にもいろいろとあること（平行脈や網目状脈）など、科学的に学ぶ自然認識力も育まれると思います。

自然の動植物との直接体験は、感性を養い五感を刺激することにも通じ、幼少期にはとても大切な経験であり、今後も様々な機会に子供達と楽しみたいと考えています。なお、草花遊びもシリーズとして、『国立てくてく』で紹介できたらと考えております。

